

社会福祉法人 瑞穂町社会福祉協議会が参加した地域ケア会議・住民懇談会で寄せられた意見・要望等
(平成26年度・平成27年度)

期日	会議等名称	会場	参加者数	主な意見・要望等
(26年度) 4月23日	第1回地域ケア会議に向けた「南平・さかえ・富士見町地区」関係者との打合せ	武蔵野コミュニティセンター	18名	<ul style="list-style-type: none"> ・巡回連絡カードの活用（駐在所）。 ・地域包括支援センター充実を望み、職員増が必要。 ・老人クラブでの声掛け運動を実施。 ・災害時要援護者への町内会の負担増、町内会未加入者へのサポートは困難。 ・町内会の加入率が下がっているため、隣組班の編成を行った。高齢者が町内会から抜けることなく加入し続けられる仕組みも必要。 ・老老介護をされている方へのサポートが必要。
6月27日	第1回元狭山地区地域ケア会議	元狭山コミュニティセンター	25名	<ul style="list-style-type: none"> ・地域全体の把握は、町内会でも難しい。地域行事では顔を合わせるが、個別に関わることがあまりない。 ・要援護者台帳の扱い方が難しい。町内会役員の負担が大きい
7月31日	第1回長岡地区地域ケア会議	長岡コミュニティセンター	22名	<ul style="list-style-type: none"> ・一人世帯高齢者が町内会に加入していない方が多い。 ・町内会の手伝いができないことで、高齢者世帯が退会してしまう。 ・高齢者で買い物に行っても、重いものを持たない声が出ている。
8月20日	第1回箱根ヶ崎西地区地域ケア会議	ふれあいセンター2F	15名	

期 日	会 議 等 名 称	会 場	参 加 者 数	主 な 意 見 ・ 要 望 等
8月29日	第1回箱根ヶ崎東地区地域ケア会議	町民会館	28名	<ul style="list-style-type: none"> 見守り訪問をしても、会えない人がいる。このような引き込みがちな人が心配。 町内会などに所属していない人へのアプローチが難しい。 見守り組織を町内会で検討し、立ち上げたい。 認知症になっても地域で安心して生活できる環境づくりが必要。 地域包括支援センターを知らない人がいる。 民生委員・児童委員と町内会との情報交換が必要。 高齢者と子どもとの防災訓練を実施。 歩行困難な方は自動車に乗せて、夕涼み会を実施。
9月13日	石畑地区住民懇談会	石畑中央会館	31名	<ul style="list-style-type: none"> 殿ヶ谷は比較的安全な平和な地域である。事件等も少ない 町内会加入率が低い。 福祉用具や住宅改修の制度を知らない高齢者が多い。 一人暮らしだと高いところの作業等が大変。 安心して徘徊できる町内をつくりたい。 単身世帯は町内会に加入しないため、つきあいがたい、調査したい。 防災訓練の拒否反応がある。 老人クラブに町内の行事に声掛けをしてもらいたい、高齢者も話したい、できることをお手伝いしたい。
9月26日	第1回殿ヶ谷地区地域ケア会議	殿ヶ谷会館	18名	
10月27日	第2回武蔵野地区地域ケア会議	武蔵野コミュニティセンター	24名	

期 日	会 議 等 名 称	会 場	参加者数	主な意見・要望等
1月11日	箱根ヶ崎西地区住民懇談会	箱根ヶ崎西会館	26名	<ul style="list-style-type: none"> ・住民が困ったときの窓口の一本化を望む ・老人クラブに向き地域包括支援センターの詳細な説明をした方が良い ・認知症の方が安心して生活できる環境整備、認知症グループホームなどの設置を望む ・福祉バス乗車時間短縮の要望。 ・自宅開放型サロンの事例。 ・集合住宅内での見守り活動の負担。
1月15日	町内女性団体住民懇談会	町民会館	25名	<ul style="list-style-type: none"> ・エレベーター設置の要望。 ・非常階段を使用した防災訓練を実施したい。 ・参加者からの不満の声があり、茶話会を休止している。 ・個人情報取扱いには注意が必要。 ・災害時の要援護者支援が課題である（平日昼間は在宅高齢者が多く、町内会役員だけでは無理）。
(27年度) 6月17日	第1回町営東長岡住宅地域ケア会議	町営東長岡住宅集会所	24名	<ul style="list-style-type: none"> ・特に大きな問題（悩み）はない。 ・会員からカラオケの要望が多い。 ・行事等の参加費等で会員負担を軽減しているため、会員が増えたと会の持ち出しも多い。 ・会員が増えず。会員の平均年齢が上昇している。行事等への参加も減少している。 ・定例会等の会場の借用に苦慮している。 ・社協からは継続的な支援を望む。
6月23日	福祉団体ヒアリング (町手をつなぐ親の会)	ふれあいセンター	5名	
6月24日	福祉団体ヒアリング (FHMの会) ※ 精神の障がいをもつ家族会	ふれあいセンター	6名	

期 日	会 議 等 名 称	会 場	参加者数	主な意見・要望等
6月24日	福祉団体ヒアリング (町寿クラブ連合会)	ふれあいセンター	6名	<ul style="list-style-type: none"> 町内6地区での主体的な活動を望む。 介護保険制度の改正に伴い、地域包括支援センターのPRが必要。 歳末たすけあい運動のお礼はがきは見直しが必要。 病気になるたときも、生活を維持できるように日頃から自助努力が必要。
11月24日	町内女性団体住民懇談会 (瑞穂生活学校)	町民会館	14名	<ul style="list-style-type: none"> 地域包括支援センターの周知が必要。 町民向けに福祉施策等のパンフレット等を配布してもらいたい。 老人クラブに加入しない方が多くいる。 各地区にあるふれあい・いきいきサロンの情報不足している。 団体の生活支援アンケートから「電球の交換」、「障子はり」、「買物」の意見が多い。 福祉バスのバス停まで弱者は行けない。また、小さなバスでも良い。
11月25日	箱根ヶ崎東地区地域懇談会 ※ 社会福祉協議会主催	ふれあいセンター	24名	<ul style="list-style-type: none"> 高齢化で一人暮らしが増えているが、何が心配で、町内会で何ができるか議論できない。援助の声があれば、できることはある。 マンション住まいの方へ目を届かせることは困難。 要援護の高齢者の母、障がい者の息子の世帯の心配。何かあった時に駆けつけてほしい。 行政や社協が本当に困っている人を把握する策を講じる方が良い。 町内会や民生委員・児童委員は障がい者や一人世帯高齢者の台帳を持参しているか何を

				<p>してよいかかわからない。担当民生委員・児童委員と連携している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練時に、要援護者へペットボトルを対面で配布しながら安否確認を行った。 ・国勢調査のパートをしたが、マンシヨンの方は訪問しても玄関にも出てこない場合がある。どんな方がいるのかわからない。
<p>3月12日</p>	<p>町内高齢者団体住民懇談会 (松原若松寿会)</p>	<p>松原町町内会集会所</p>	<p>32名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・町公施設の有料化は活動する団体の減少につながるのではないか。 ・町公施設の利用受付申請窓口を一本化してほしい。例として高齢者が歩いてスカイホールまで行くのは厳しい。 ・町助成金の使用できる範囲はどこまでか。また、助成金を繰り越せる範囲はどの程度なのか。 ・福祉バスの運行範囲を公立福生病院まで拡張してほしい。 ・箱根ヶ崎西口周辺に商店がない。売店がほしい。 ・高齢者が増え、町内の行事等の案内をしても出てこない方がいる。どのようにしたら引き取り出すことができるか。 ・町の歩道で段差がきつい部分がある。バリアフリーの視点で、安全を考えてもらいたい。